



2025年 4月11日
第176号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



首都圏本部におけるグループ会社と一体と 提案を受ける！ なった業務執行体制の深度化について

横浜地本は東京地本と共に、首都圏本部から表題の提案を受けました。議論の概略は以下の通りです。

1. 実施内容

鎌倉車両センター中原支所において、新系列車両の機能保全および臨時修繕作業の委託を進めていく。

対象車種：E233系、E127系、E131系

委託先：(株)JR東日本運輸サービス

2. 実施時期

2026年10月

3. その他

施策実施に向けて、教育・訓練等の必要な準備を進めていく。なお体制等は別途お知らせする。

【提案時の主なやりとり】

組 合	会 社
なぜ中原支所を選定したのか。	この間、グループ会社との調整を行ってきた。車両数、車種などを踏まえて判断した。
直営で残る定期検査は、205系の交番検査とFV-E991系(HYBARI)の機能保全のみということか。	そのようになる。
委託までのスケジュールは、どのように考えているか。	これから検討を始めていく。JRとグループ会社との業務分担の線引きも行っていく。
「臨時修繕作業の委託」と記載があるが、機能保全に付帯した修繕以外も委託するのか。	機能保全車以外も検討している。グループ会社との契約による。調査はJRであるが、取替はグループ会社が行う。
2012年の「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」施策において、「機動班業務」としてJR本体に残すと議事録確認している。議事録確認に抵触するのではないか。	調査や判断はJRが行うが、取替や修繕の実作業は委託できるという認識だ。
205系やFV-E991系は、定期検査だけでなく、臨時修繕も含めてJR本体が持つということか？	その通りである。
グループ会社への機能保全作業の教育方法について、どのように考えているのか。	検討中である。グループ会社社員を外向受けして教育する方法や、JRが作業しているところに見習いに入るといった方法がある。
E127系やE131系は、配置編成数が少ない。特に機能保全(年)は検査機会が少ないが、教育がやり切れるのか。	配置が少ない車両の教育も考慮し、中原支所の実施時期は、他の区所よりも半年ほど長めに取っている。
中原支所の機能保全と臨時修繕業務を委託した場合、どれくらいの要員規模が出面として変化するのか。	中原支所は職場内の融合により、切り分けが難しい。機能保全に従事する社員は10名程度いるが、実際の機能保全作業の業務量で見ると、もう少し小さい数字になると考えられる。
機能保全のチェックシートが電子化されているが、タブレットを持たないグループ会社が対応できるのか。	これから検討していく。場合によっては委託後に紙でチェックシートを記入することもあるかもしれない。
現在、職場では機能保全工程の見直しで、担務主任を廃止するトライアルを行っている。委託後は配置しないのか。	担務主任を置くかどうかは、グループ会社の判断となる。 ※本部一本社の議論では、移管時はJRの工程で引き継ぐ
中原支所は、会社提案通りだと配置車両の9割以上の機能保全や臨時修繕が委託される。職場のあり方はどうなるのか。また、モチベーションが保てるのか。	中原支所のあり方はこれから検討していく。業務量や人が減っても、鎌倉車両センター総体でできるものもある。

南武線・鶴見線の安全と、サービスレベルを守るため、
検修職場の仲間とともに、職場議論を深めていきます。